



いわき市立大野中学校

学校だより 第3号

令和元年 5月27日(月)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0246-33-2233

教育目標：自立と貢献

めざす学校像：志を育む学校

学び合い、高め合う学校

信頼され、愛される学校

スポーツ笑顔の教室

5月27日(月)、1・2年生を対象に「スポーツ笑顔の教室」を開きました。この授業は、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本サッカー協会などの支援により実現しました。「スポーツ笑顔の教室」は、トップアスリートなどを講師に迎え、スポーツと対話を通じて、子どもたちとコミュニケーションを図り、子どもたちの可能性を引き出すこと目的としています。



今回、本校にいらした夢先生は、金古聖司(かねこ せいじ)先生です。金古先生は、福岡県出身の元プロサッカー選手です。東福岡高校時代には、全国高校サッカー選手権大会、インターハイ、高円宮杯全日本ユースサッカー選手権大会を制し、高校3冠、得点王に輝きました。その後、U-21日本代表に選出され、高校卒業後の1999年に鹿島アントラーズに加入し、Jリーグカップ、天皇杯全日本サッカー選手権大会など数々のタイトルを獲得しました。さらには、2009年からは、シンガポール、インドネシアなどの海外リーグでも活躍しました。2015年に現役を引退し、2016年からは、本庄第一高校(埼玉県)の事務職員兼サッカー部監督として活躍されています。



体育館でのサッカーボールを使ったチームワークゲームで盛り上がったあとは、教室に移動し、金古先生から、ご自身の怪我や挫折経験に基づいた貴重なお話をうかがいました。金古先生は、「好きなことを大切に将来の目標や仕事を決め、困難を当たり前と思ってあきらめず前に進んでいくこと」「自分を生かす場を日本だけに限らずに、海外を視野に入れて考えてみること」など、一人一人に多様な気づきや学びを与えてくださいました。



本校では今後も、「学びに向かう力、人間性」などの資質・能力を育むための教育プログラムを積極的に活用し、生徒一人一人が人生を主体的に切り拓いていけるよう支援していきます。

<6月の主な行事予定>

- 3日(月) 教育実習(～28日)
- 5日(水) 救急救命法講習(1年)
- 6日(木) 救急救命法講習(2・3年)
- 13日(木) 市中体連総合大会(～17日)
- 20日(木) 認知症講座(1年)

- 22日(土) 全校集会、常任委員会、
テスト前部活中止(～24日)
- 25日(火) 期末テスト(国、数、英、理、社)
- 26日(水) 高校説明会、学年懇談会
- 29日(土) 生徒会長サミット全体ミーティング



★ お子さんや学校のことで、ご相談などがありましたら、担任又は教頭まで、気軽にお伝えください。(いわき市立大野中学校 電話 33-2233)

本校がめざす学び

目の前の生徒たちが活躍するであろう 2030 年の近未来では、想像以上の大きな変化が待ち受けています。日常の暮らしの中に人工知能（AI）などが普及する社会においては、ただ一方的に知識を教えるだけの教育を行っていても期待される人材を育成することはできません。

知識の習得はもちろん重要ではあるものの、身の回りに生じる様々な問題に自ら立ち向かい、その解決に向けて異なる多様な他者と協働し、力を合わせながらそれぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく力をもった人材こそが求められています。様々な知識や情報を「活用・発揮」しながら自分の考えを形成したり、新しいアイデアを創造したりする力をもった人材が求められているとも言えるでしょう。変化の激しい社会の中では、「何ができるようになるか」が重要になってきます。これまでは、暗記と再生を中心として、より多く、より長く記憶にとどめることこそが優秀と考えられる価値観がありました。しかし、むしろこれからは、考えることや発信することを中心として、**より積極的に課題に立ち向かい、より多様な関わりを通して課題を解決していく姿**が期待され求められています。



こうした社会の変化だけでなく、生徒の実態からも、今後の実社会で活用できる学力を育成することは喫緊の課題となっています。そのためにも教師中心の学びから学習者中心の学びへ・・・自ら学び、共に学ぶ生徒を育てることにさらに目を向ける必要があります。**これからの学校教育は、実社会で活用できる学力を育成することが最重要のポイント**と認識しています。

学校における働き方改革に関する取組

いま、社会全体で働き方改革が進められていますが、「学校の働き方改革」は特に待ったなしの状況です。朝は子供たちが登校する前の7時すぎから子供たちを迎えるための準備を始め、夜は職員室の明かりが20時前までついていて、土日もグラウンドや体育館で部活動をやっている、これは全国の小・中学校の平均的な姿です。一人一人の子供たちと丁寧に向き合いたいという思いから、毎日時間に追われて働いているため、教師は他の職業と比べてストレスが高いというデータもあります。「忙しいのは先生だけではない」という声もあるのは分かっていますが、実は、「学校の働き方改革」が必要なのは教員を楽にするためではありません。学校が子供たちの未来に直結する場所だからです。ご存じの通り、これから大きく社会が変わろうとしています。今でもパソコンやスマホ、外国人との仕事や交流など、私たちが子供だった時とは取り巻く環境が違ってきています。学校は、子供たち一人一人がそんな未来をたくましく生き抜く力を身に付ける場所ではなくてはなりません。きちんと文章が理解できる力、答えのない問題に対し、自分で考え仲間と協力して取り組む力、知らない人に自分の意見を正確に伝える力などを確実に身に付けさせなくてはなりません。「学校の働き方改革」は、これまでの教員の働き方を見直し、毎日元気に子供たちの前に立って、未来につながる力を育む教育を行うために必要なものです。

本校においても、教員の仕事を質・量の両面から改善し、生徒とこれまで以上に向き合う時間を確保し、教員本来の専門性を発揮できる機会を増やすとともに、未来を創り上げる資質・能力を子供たちに育むために、教員研修の充実を図っていきます。子供たちの教育をさらに充実させる、そのための「学校の働き方改革」にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

